

# 医療事務の学習支援を目的とした診療報酬算定フローチャート教材の導入

## Introduction for the Medical Fee Calculation Flowchart Aimed to the Medical Treatment Learning Support

藤井 厚紀<sup>\*1</sup>, 石橋 慶一<sup>\*1</sup>  
Atsunori FUJII<sup>\*1</sup>, Keiichi ISHIBASHI<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> 福岡工業大学短期大学部  
<sup>\*1</sup>Fukuoka Institute of Technology, Junior College  
Email: fujii@fit.ac.jp

**あらまし**：本研究では、医療事務の学習教材として診療報酬算定ルールのフローチャートを導入することが当該学習にどの程度有効であるかについて検討した。医事会計システムの学習を目的とした授業において各学生は、診療報酬点数表にある「薬剤情報提供料」の算定ルールを表すフローチャートを作成し、一定期間を設けた後、教員は当該フローチャートの模範解答を解説した。フローチャートの作成前後に行われた当該算定ルールに関するテストの成績を比較した結果、80%の学生の成績が向上したことが認められた。また、当該授業のフローチャートの作成演習に対して、90%の学生が肯定的な評価をしていたことがわかった。以上の結果から、診療報酬算定フローチャートの導入によって医療事務の学習が促進される可能性が示唆された。

**キーワード**：医療事務、フローチャート、診療報酬、算定ルール

### 1. はじめに

近年、医療現場において医事会計システムや電子カルテシステムが着実に普及し、医療事務職における診療報酬請求業務の効率化が進んでいる<sup>(1)</sup>。こうした医療のIT化に対応した医療事務職として求められる知識やスキルは、今後ますます高度になることが予想される<sup>(2)</sup>。

ところで、医療事務を学ぶ学生に着目した研究報告<sup>(3)</sup>では、学習者がしばしば困難を抱える学習対象として、診療報酬項目の算定ルールが挙げられている。診療報酬区分全体でみた診療報酬算定ルールの数は極めて膨大であるため、学習者は繰り返しによる記憶（リハーサル）によって学習を遂行するだけでなく、算定ルールの構造に関する論理的な学習を深めていくことが必要と考えられる。しかしながら、そのような視点から医療事務の授業方法や教材のあり方について検討した研究はこれまでほとんど見当たらない。

これらの課題に対して、筆者らは情報工学の分野で用いられている「フローチャート」を医療事務の学習教材として導入することに着目した。各診療報酬項目の算定ルールを表現するフローチャートを学習者自らが作成することによって、ルールの構造や算定を判断するポイントの理解の促進につなげることが可能になるのではないかと考えた。

そこで本研究では、医療事務の学習支援を目的として、診療報酬項目のひとつである「薬剤情報提供料」の算定ルールをフローチャート化する演習授業を行った。事前・事後テストの成績比較および授業アンケート結果を通して、医療事務の学習に対する有効性について検討を行ったので、その概要について報告する。

### 2. 研究方法

#### 2.1 授業科目と対象者

本研究では、診療報酬に関する知識と医療事務のITスキルの双方の向上を図るために、フローチャートの作成の演習を「医事コンピュータ」という科目名の授業において実施することとした。この授業では、医事会計システムの使用法を学ぶとともに、これまでの講義で学んだ内容の定着を図ることを目的としている。具体的には、10症例のカルテから算定可能な診療報酬項目を医事会計システムに入力し、レセプトを作成することを演習形式により行った。

本研究を実施した2016年度において「医事コンピュータ」を履修した学生は、16名であった。そのうち、医療事務に関して当該科目から初めて履修した学生（初学者）は9名であった。授業開講早期に履修放棄した学生や試験を欠席した学生（全て再履修）を除いた10名（初学者5名、経験者5名）を本研究における調査対象とした。

#### 2.2 「医事コンピュータ」の授業計画

「医事コンピュータ」の授業の第9週目において「薬剤情報提供料」の算定ルールに関する事前テストを実施した。次に、第11週授業においてフローチャート作成の演習を行った。まず、「初診料」の算定ルールのフローチャートを配付し、フローチャートの概要について説明した。その後、診療報酬点数表を参照しながら「薬剤情報提供料」算定ルールのフローチャートの作成を行った。学生が作成したフローチャートは授業終了後に回収し、コピーして翌週（第12週目）に返却した。更に第13週目において、教員は当該フローチャートの模範解答を配付し、その内容について解説を行った。その後、各学生は自

分が作成したフローチャートの整合性の確認を行った。最後に、第15週目において「薬剤情報提供料」の算定ルールに関する事後テストを実施した。

### 2.3 事前・事後テストとアンケート

フローチャート作成演習の前後において、「薬剤情報提供料」の算定ルールに関する試験を実施した。試験は、それぞれ中間テスト（第9週目）および理解度確認テスト（第15週目）の問題の一部として組み込んだ。そこでは、「薬剤情報提供料」の算定ルールの知識を問う記述式問題を設定した。配点は15点満点として、学生が記述した内容と各条件文とを照合し減点方式により採点した。

第15週目の理解度確認テストの中でフローチャート作成の演習に関するアンケートを実施した。その内容は、「作成したフローチャートの整合性の確認をしたことによって算定ルールの理解に役立ちましたか」という質問に対して5件法により回答してもらった。

## 3. 結果

第9週目（事前）と第15週目（事後）で行われた「薬剤情報提供料」算定ルールに関する記述テストの得点の比較を図1に示す。図中、学生AからEの5名が初学者であり、FからJまでの5名が経験者である。

この図から、事前テストに比べ事後テストの得点が増加している学生の多いことがわかる。具体的には、初学者については5名中4名（80%）が、事前テストよりも事後テストにおいて得点が高かった。また、経験者についても5名中4名（80%）の得点が事後テストにおいて上昇しており、全体として80%の学生の成績が向上したことが認められた。とりわけ、初学者の学生Bについては成績の上昇幅は顕著であり、11点も増加していた。反対に、事後テストにより得点が著しく減少した学生はいなかったが、初学者1名（学生E）について1点の減少があった。

事前テストと事後テストについて、初学者と経験者の点数の平均を求めると、初学者では事前：3.0点、事後：7.6点、経験者では事前：10点、事後：12点となり、全体を平均した場合は事前6.5点、事後：9.8点であった。

第15週目に行われた理解度確認テストにおけるフローチャート作成演習に関するアンケート結果を図2に示す。「フローチャートの作成と整合性の確認作業が「薬剤情報提供料」の算定ルールの理解に役立ったか」について質問した結果、否定的な回答をした学生は存在せず、「まあまあ楽しかった」または「とても楽しかった」と回答した学生の割合は90%とほとんどの学生が肯定的に評価していた。

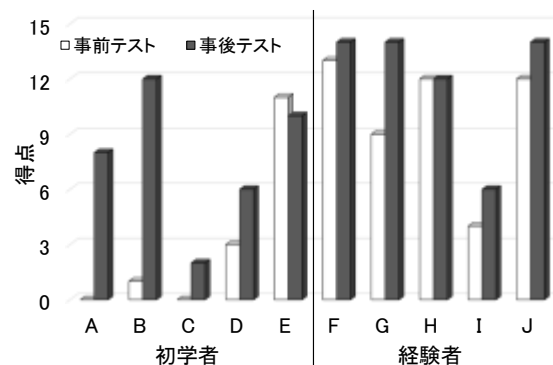


図1 事前・事後テストの得点の比較

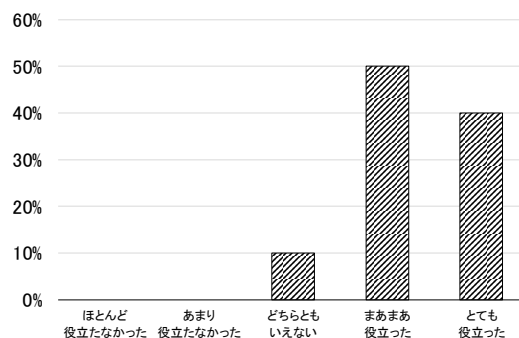


図2 アンケートの結果

## 4. まとめと今後の課題

本研究では、医療事務の授業における診療報酬算定ルールのフローチャートの作成や活用が、医療事務の学習の促進にどの程度有効であるかについて検討した。フローチャートの作成前後に行われた、診療報酬算定ルールに関する知識テストの成績を比較した結果、80%の学生の成績が向上し、特に初学者においてその向上が顕著に認められた。また、授業アンケートの結果から90%以上の学生がフローチャートの作成の演習について、肯定的な印象を持っていたことが示された。以上の結果から、医療事務の授業における診療報酬算定フローチャートの導入は、当該学習の促進に有効である可能性が示唆された。今後は、フローチャート化する項目を増やした上で同様に効果を検証することや、学習成果アセスメントツールとしてフローチャートを活用することについて検討していくことが課題である。

### 参考文献

- (1) 厚生労働省：診療報酬情報提供サービス，<http://www.iryohoken.go.jp/shinryohoshu/>（参照2017.4.18）
- (2) 小野洋子，伊藤敦：“医療事務職に求められる能力と教育カリキュラム—自由が丘産能短期大学のカリキュラム設計の視点から—”，自由が丘産能短期大学紀要，第43号，pp.69-84（2010）
- (3) 西山良子，堀初子，中楠登志子：“診療報酬関連科目の指導方法における課題—アンケート調査結果から—”，医療秘書実務論集，第5号，pp.41-49（2015）